

新型コロナウイルスの影響で外出自粛が続いた5月、ソルフェージュスクールは初の試みで希望者にオンラインレッスンを行いました。オンラインレッスンを受け持ってくださいました先生方にレッスンの様子や感じたことなどを伺い、巻頭に特集します。また前号に続き石田昌孝先生の「私達のソルフェージュ教育」を掲載します。これから更に多様化していくであろう音楽教育の在り方を考えるにあたり、変えていくものと変えてはいけないものを正しく把握するためにも、石田先生の残された資料は大変貴重なものです。そんな石田先生をはじめ、ソルフェージュスクール歴代の先生方から学び、のちに講師として改めてスクールに戻ってこられた先生方が、スクールには何名もいらっしゃいます。その中のお一人、加藤恵理先生に、生徒・講師両方の視点からソルフェージュスクールの思い出などについて今回お話を聞かせていただきました。

～オンラインレッスンという新しいかたち～

コロナ禍で始まったオンラインレッスンは、スクールにとっても音楽教育の在り方について改めて考えるきっかけとなりました。実際にレッスンを行った先生方にその感想を伺い、オンラインレッスンのメリット・デメリット、変わるもの・変わらないものについて考えていこうと思います。

新型コロナウイルスの影響で二か月以上レッスンが中断しておりました。このようなコロナ禍の中、初めてのオンラインレッスンが行われました。本当に繋がるのか半信半疑でしたが、暫くパソコン画面を見つめていると懐かしい顔が画面いっぱいに広がりました。いざ、レッスンがスタートするとパソコン画面ではあるものの、本当に目の前にいるような感覚を覚えました。もちろん反応の遅れや電波状況なのか音声が途切れてしまう時もありましたが、終始楽しくレッスンをすることができました。何よりも画面上の小さなピアニストが一生懸命にピアノを弾いて伝えようとしている姿が印象的でした。普段の対面レッスン以上に集中力が長く続いているように感じられました。ただ、細かい指使いなどはやはり対面レッスンの方が分かりやすいかも知れません。オンラインが対面に勝ることはない、と信じておりますが(ピアノレッスンに関しては)、オンラインでも何かを伝えようという意思は十分に感じ取ることができました。

コロナ禍の中、様々な分野でオンラインが隆盛を極めていますが、さて、どれだけの分野で定着するのでしょうか。オンラインの良さも感じつつ、音楽は対面が一番！と思いを新たにしたい今日この頃です。

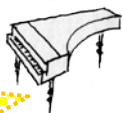
【津布楽杏里先生 (ソルフェージュ・ピアノ)】

♪ 生徒さんの声 ♪



何もやらないよりはやれたほうが良いや！
(小6・Sol&Pf)

(zoomでの) 最後のごあいさつが「ありがとうございます」でフツツと切れちゃって、おかしかった(笑)
(小2・Sol&Pf)



はじめはちょっとやりにくかったけど、だんだん慣れたよ
(年中・Sol&Pf)



いつもと全然違って、音が切れて、歌がずれた
(小1・Sol&Pf)



ピアノは対面よりはやりにくかったけど、歌はリモートでも変わらなかった！
(小5・Sol&Pf)



2020年、春休みを前に思いもかけないことが起こりお休みとなったソルフェージュスクールですが、5月から希望された生徒さんのオンラインレッスンが始まりました。いったいどんな風になるんだろうと不安いっぱいでしたが、顔を見合わせると驚くほどにいつも通り。保護者の皆様の力強いサポートのもと、1週間の間にしてきたことをカメラに向かって披露してくれる密度の濃い時間になりました。

オンラインということで、当然音質には限界もありました。また、タイムラグがあるため、演奏している時にいっしょに歌ったり拍を数えたりということも避けたいので、演奏が途切れた時に的確に分かりやすく伝えなければなりません。普段いかに言葉を使っていなかったかを思い知らされました。手振りや、絵など、視覚的なものの助けも借りましたが、事前によく準備して臨むことが不可欠だと実感しました。生徒さんは持ち味を發揮、私は毎回試行錯誤、といったオンラインレッスンでしたが、どんな形であっても繋がっていることの喜びは本当に大きなものでした。また、今回入室されたみなさんとも間違いなく「繋がって」います。

どんな時でも音楽がそばにいてくれること、人との繋がりの力になってくれることを信じて大切にしていきたいと思います。

【込山今日子先生 (ソルフェージュ・ピアノ)】

昨今の世界的な不安は、まったく予想のつかない今日を作り出しました。ソルフェージュスクールにも様々な影を落としました。突然おさらい会が開催されないことを知った生徒の皆さんやご家族の皆さまは、さぞかし寂しい思いをされたことと思います。私たちが突然の休業要請に、生徒さんとご家族の皆さまの安全を第一と考え、5月6日までお休みとさせていただき、7日よりオンラインレッスンを始めました。

開始にあたり一番考えたことは、オンラインで何が出来るか。音楽を奏でる時に何が大切か。私は幼い頃からこのスクールで沢山のことを学び、その中でも一番心に残っていることが、音楽にはその人がかもし出す空気感が大切だということ。果たしてオンラインでそのことを伝えることができるだろうかと思いましたが、まずは繋がるのが大切と、生徒さんと親御さんの協力のもと始めました。しかし、その不安は開始早々解消されました。何より画面の向こうの生徒さんたちが、元気で、輝いていて！普段以上に私たちに「音楽大好き！」と伝えようとしてくれました。時間も半分にしましたからそのぶん集中していたのかもしれませんが。その明るさと他を思いやる姿に私たちがどんなに助けられ、希望をもたせてもらえたことか！！器楽レッスンもソルフェージュも、オンラインでできることを模索しながら、工夫しながら、新たな発見をしながら行い、終わった後は心地よい疲労と喜びがありました。その中で、音楽はやはり対面でお互いが感じあいながら奏でることが大切と思いを新たにしながらも、オンラインでも皆さんと繋がることができることを確信いたしました。

(今後、その他の感染症流行や台風、雪など有事の際には、それでもレッスンがしたいというご希望に添うことができます！) 6月からはスクールでの対面レッスンも始まり、今は生徒さんたちの明るい声が戻ってまいりました。ある男の子がホールへ駆け上がり、「なつかしい！」と言ってくれた時には、ジーンとしてしまいました。

オンラインレッスンでも変わらないもの…それは、音楽が大好きという心。音楽はどんな時でも私たちに勇気付けてくれ、そばにいてくれることを、これからも伝えていきたいと思います。1日でも早く、みんなで合奏したり、歌ったりできる日を願いながら。

この場をお借りして、オンラインレッスンをするためにご協力くださいましたご家族の皆様へ感謝を申し上げます。
【江原陽子先生(ソルフェージュ・ピアノ)】



ウフクラスは残念ながら完全に休みとなりましたが、レ・テタルとソルフェージュ&ABCは合同でオンラインレッスンを行いました！このように、普段のレッスンとは異なるチャレンジもでき、思いがけず楽しい発見や新しい可能性も見いだせたオンラインレッスンでした。



久しぶりに生徒さんと会えて、とっても嬉しい笑顔が浮かべていらっしやる吉村先生。画面越しではありますが、生徒の皆さんと音楽を共にする時間は講師にとっても励みとなりました。



オンラインでのソルフェージュの授業は初めてのことで緊張した。zoomというアプリを初めて使うため、予めソルフェージュスクールでzoomの練習をしたが、練習と実際の授業は別物だった。限られた時間を意識すると少しの無駄も許されないと感じ、授業前の準備がいつも以上に重要に思えた。

zoomの授業はアプリを立ち上げ、招待のボタンを押し、応答を待つ。これもすごく緊張。緊張のしっばなし。…暫くして生徒さんの懐かしい顔が現れる。久しぶりに会うので(画面上であっても)とても嬉しかった。さすが！子供たちは緊張などしていない。いつも通りの自然体だ。スゴイ！

zoomの練習のとき、時間差が生じる事を知った。いつもソルフェージュの授業でやっているけれどzoomでは無理な事(一緒に歌う、ピアノ伴奏で歌う、二重唱など)は省かなければならない。やれそうなことを考えた。

2人でそれぞれ違う音程で声を長く伸ばせば綺麗にハーモニーさせて音を響かせる事ができる。よく聴くことと音程の勉強ができた。(Kodalyの教本使用)いつも使っているChassevantの教本は息継ぎのマークがフレーズ毎に交代で歌い継ぐことができた。(これは普段でもやっている良い訓練だが今回はたくさんできたのが良かった。)zoomでは書き取りも問題なくできた。

お互いに無駄な時間が生じないように意識したためか、短時間で集中し思ったよりも効果が出た。(その代わりに疲れた。)

オンラインレッスンによるメリットも感じられたが、音楽の勉強には対面での授業に勝るものはない。細やかな音のニュアンス、響き、空間に伝わる音波の動きなどが体感できないことは問題だ。一緒にアンサンブル体験ができないことも問題だ。オンラインレッスンはあくまでも普通の授業ができない場合の代わりと位置づけたい。怪我やインフルエンザなどで登校できない時、台風やストライキで交通が止まった時など、今まではお休みするしかなかった場合もオンラインレッスンで休まずに済むのはメリットだろう。

最後に、自宅からのオンラインレッスンで家にあるみんなのお宝を見せてくださった生徒の皆さんに、「ありがとう！」
【吉村隆子先生(ソルフェージュ)】

〈スクールの取り組み〉

- ・講師・スタッフはマスク着用
- ・手洗い、手消毒の徹底
- ・スクール内設備、室内、共有物(スリッパ等)の都度消毒
- ・レッスンごとに窓を開けて換気、ピアノの拭き掃除
- ・レッスン中も生徒と一定の距離をとる
- ・歌うことは最小限に抑える

〈生徒の皆様へお願い〉

- ・マスクをご着用ください
- ・スクールに到着時、入り口に設置してある消毒液で手の消毒をお願いします
- ・体調がすぐれない場合は無理をせずお休みください

石田昌孝先生の言葉

～「私達のソルフェージュ教育」に紡がれる想い～

ソルフェージュスクール創立メンバーの一人であった石田昌孝先生ご執筆の「私達のソルフェージュ教育」(当スクールで1977年～89年にかけて発行していた冊子「ソルフェージュ音楽」内に連載)。前回ご紹介した内容に続き、今回は「拍を打つこと」の大切さについて再掲載します。拍を理解して歌うことはソルフェージュのレッスンにおける軸であり、心から音楽に親しむために重要なことです。

「私達のソルフェージュ教育 (2)」

前回、楽譜を見て正しく歌うことが、ソルフェージュの第一歩であり、歌う時に、その音楽の持つ拍子の基本の拍を打ちながら歌うことが、特に大切であることを述べてきました。今回は、このことについて少し考えてみたいと思います。

歌う時に拍を打つことは、まず音符の長さを正確に歌うためであるとは言ってもありませんが、それだけのためならば、手で拍を打たなくても、メトロノームのような機械の打つ数を数えればよいと思う人もあるでしょう。しかし、拍は音の長さをはかるためだけのものではありません。それは音楽の一番底にあって、拍を打つ手の動きのように、単純な動きを繰り返す運動です。そして、これが音楽を支える土台となり、前に進めていく力となります。これは、私達の体には心臓や呼吸の働きがあって、それが生命を支えているのにとえられるでしょう。音楽を自分のものにするためには、拍の運動に伴う緊張と弛緩を、体で感じ取らねばなりません。拍を打ちながら歌うことは、このような意味を含んでいます。

拍を打ちながら歌うと、音楽の流れと共に、拍は様々な長さの音に分けられたり、長い音の場合には、その音が続いている時間は、脈動する拍によって区切られ、量られていることを感じ取ることができます。このように音楽をしている時間は、常に区切られ、量られています。それによって、その時間は意識され、高められて、日常の時間とは違ったものになります。そして、音楽のリズムと拍子の関り合いを知り、休符の時、つまり音が鳴っていない時でさえ、空白ではなく、音が鳴っている時と変らぬ充実した時が流れていることを体験します。この体験があって、はじめて休符も生きた意味を持ち、従って音楽全体も生きた意味をもって捉えられるようになります。(図1)



このようなことは、自分で拍を打って数えることによって、はじめて起こることで、(他の人が打つ拍子に合わせたり)メトロノームに頼るのでは、外から与えられた拍子の数を数えるだけで、基本的な時間を心のうちで量ることはなりません。又「リズム打ち」といわれる、音の長さそのものに合せて手を打つ方法では、リズムの下にいつもあって、リズムを規定していく基本的な時間を、やはり感じ取ることができません。(図2)

音楽の表面はどんなに自由で華やかに動いているように見えても、その底には、いつも一定の間隔で打つ拍があり、それは目立たぬものですが、表面のリズムの動きを規定し、それがなければ、音楽は感情の陶醉に流れたり、情緒に溺れたりしてしまいます。そうなれば音楽はただ気晴らしか娯楽でしかなくなります。もちろん、そんな音楽もあってよいでしょうが、それは私達の求める精神の糧、心のよりどころとなる音楽ではありません。

表面は様々でありながら、内にある一定の厳しい法則がそれを規定しているのは、音楽に限ったことではありません。自然も人生もそうであり、他の諸芸術にも共通の事です。当然ですが、音楽もそれらのものと、その点で同じ基礎に立ち、同じ真理に基づいています。

近頃は、科学技術の進歩のおかげで、昔は想像もできなかった程の便利な世の中になりました。そして、私達は平和な時代に生きて人間の自由等と叫ばなくても、そんなことは当然と思って暮らしています。日常はつい忘れがちですが、人間の自由は決して無限の広がりを持つものではなく、社会的にも、自然的にも一定の制約の中にしかないのと言うまでもありません。その中で、私達は理性と本能の調和を求め、自分の望むことを実現していかなければなりません。この過程の中でも人格が陶冶されていくのではないのでしょうか。音楽を通して人間の力の及ばない何物かの支配の下にあり、許される自由もその中にしかないことを知り、人間の偉大さも、美しさも、喜びも悲しみもそこから由来することを知ることができます。音楽が人間形成に役立つと言われるのも、この様なことによるものと考えられます。又、音楽を通して知ったこれらの事が、その人の心に働きかけ、生活を律するようになった時、音楽が教養になったと言えるでしょう。音楽が教養になると

石田昌孝先生

北海道小樽市出身。お母様の影響でピアノを習い始める。北海道大学理学部卒業後、同大学教育学部音楽科に再入学し音楽を学ぶ。

その後、東京で大村多喜子先生と出会い、ソルフェージュスクールの設立に参加。

「音楽が、言葉と同じように、全体の文脈の中で何を言っているかを理解する助けとなるもの」がソルフェージュで、ひいては楽曲分析にまで達するのだ、という考えのもと、ソルフェージュスクールで50年に渡りソルフェージュとピアノの指導に当たる傍ら、昭和音大短大ピアノ科の教授も勤める。2012年3月逝去。



2011年11月創立50周年記念演奏会にて。バイオリニストのジョセフ・リン氏(左)と談笑する石田先生(中)、吉村先生(右)

いう事は、何か楽曲を上手に弾けることや、音楽について知識をかき集めていることではありません。

音楽は音を素材としていますが、音そのものは感覚に直接働きかける性質があります。そのために、音楽は幼児にも働きかけ、無意識のうちにこれらの事を感じ取らせませす。音楽を本当に知った人が、深い内容を持った音楽を、積極的に体験する時、ここに多くの言葉を費やして述べたことを一瞬のうちに感じ取り、人生の真理を悟ることができるのです。

拍について、私共の考えるところを述べましたが拍はいくつかまとめられて、新しい単位一小節一となります。実際の教育の場では、小節を一つの単位として感じ取ることが大切ですが、これについては、別の機会にお話したいと思います。(1978年3月春季号より)



(財)ソルフェージュ振興会 理事会の集合(1977年) 大村多喜子先生(下段中央)、林紀子先生(下段左から2番目)、石田昌孝先生(上段左から3番目)、青木十良先生(上段右から3番目)

ソルフェージュスクール 生徒として・講師として

ソルフェージュスクールには、本校出身の先生が多く在籍しています。今回はその中から、ピアノとソルフェージュ担当の加藤恵理先生に、生徒だったころの思い出など、「生徒」と「先生」両方の視点を持つお立場ならではのお話をうかがいました。

♪当スクールに通い始めたきっかけ、

ピアノを選んだ理由はなんでしょう？

私はよく覚えていないのですが、小学校に入ったばかりの頃、習っていたピアノの先生が高齢のためレッスンができなくなってしまいました。普通のピアノの先生ではないところを探していた母が、目白にととても良い教室があるとソルフェージュスクールをご紹介いただいたのがきっかけです。はじめはソルフェージュのみで器楽は少し経ってから始める、という方針も新鮮でよかったようです。

♪特に印象に残っていることはありますか？

私はぼんやりした生徒でしたので、これをすごく覚えている、ということはあまりないのですが、母はこんな調子で大丈夫かと先生に伺ったところ、「植物を育てるのと同じで一朝一夕に花が咲くわけではない、毎日水をあげたり、お日様に当てたりする今の時期が大事ですよ」と言われたそうです。

中学で部活をやろうか迷っていた時、林先生が「今しかできないことをおやりなさい、ピアノは続けていれば大丈夫」と私にどちらかを選ばせることはせずに、見守ってくださったのを覚えています。「弾けない時があっても、ピアノに向かっていなくても、音楽の勉強はできる。家のお手伝い、雑巾がけなんてとても良いよ、腕の力がつくしね。いろいろな経験を積みなさい」とも言われました。このことは自分の中で都合の良い言い訳になりながらも今まで音楽を続けてこられている要因になっています。

♪楽しかった思い出を教えてください

何といっても合宿です。中学になって参加した合宿で、初めてソルフェージュスクールの同年代のお友達ができました。午前中は連弾のレッスンがあったり、リコーダー合奏をしたりして過ごすのですが、午後は先輩方の室内楽の時間。モーツァルトやベートーベンの流れる中、お友達とトランプに励みました。その輪にだんだん仲間が増えていって、最後は先生方も加わって…。また食事作りや後片付けのお手伝い、先生お手製のお料理が並んだこともありまして。ゆったりした時間の流れの中で生活を共にする、音楽にあふれた贅沢で楽しく豊かな時でした。

加藤恵理先生からのことば

「私は当スクールで学びました。広いホールで音楽に合わせて体を自由に動かし、拍を感じながら友達と声を合わせる。この体験が音楽のみならず私の人生の大事な基礎となっているのを感じます。さまざまな実を結ぶであろうお一人お一人の根っこ部分に寄り添って、一緒に歌い、聴きあいながら音楽のたのしさを伝えていけたらと思っています。」

♪先生として戻ってきたときに感じたこと

子育ての期間しばらくスクールから遠ざかっていましたが、久しぶりに訪れた時、建物の外観や入口のドアの音、懐かしい匂いなど、昔とびっくりするほど変わっていない雰囲気を感じました。ただ子供を取り巻く世の中の流れは昔と大きく違います。学校では得意なことが一つあれば良かった時代から多くのことをまんべんなく求められる時代に変化しています。スクールでも限られた時間の中、どれだけ豊かな音楽のときを分かち合えるかが問われてきていると感じます。

♪創立当初の先生方について

スクールでは担当の先生以外にもいろいろな先生にみていただく機会がありました。合宿では石田先生、ヴァイオリンの伴奏のときには大村先生というように。どの先生も個性があって、お話が楽しかったのを覚えています。レッスンの途中に全然違う話が始まって、ひとしきり話されたあと曲に戻ると、さっきは弾けなかったところが不思議なことに弾けるようになってい、なんていうこともありました。

ずいぶん後になって、子供の頃に言われたあのときのことはこういうことだったんだ、と気づくことがあります。きっと時間が経っても変わらない物事の本質を言うてくださっていたのだと思います。

今思い返してみると、創立当初の先生方から私がいただいたのは、本物の音楽に触れる機会とそしてずっと音楽を好きでい続けられる心だったのだと思います。

〈編集後記〉

オンラインレッスンは、有事の際や、受験勉強などやむをえない事情があっても音楽を学びたいという志に応えることができる可能性をもつものであり、スクールとしても今後も特別なケースに対応する一時的手段として取り入れていきたいと考えています。

講師からの印象的な言葉で、「ソルフェージュスクールで学ぶのは単なるテクニックではなく音楽そのものであり、その周りの空気までも感じなければならないもの。効率性や利便性で片付けられないものが音楽だ」というものがありました。これはソルフェージュスクールがどんな場所であるかを的確に示している言葉だと思います。またオンラインでは伝える側（講師）も受け取る側（生徒）も相当な労力と集中力が求められます。時代により変わらざるをえないこともあるかもしれませんが、スクールとしては、今は安全に十分に配慮し、一日も早く安心して対面レッスンや演奏会が行えること、「音楽」を十分に伝えられる日が戻ってくることを願っています。

【今後の予定】

- 楽しくアンサンブル、夏季合宿
残念ながら中止とさせていただきます。
- 秋のおさらい会、その他
今後の変更事項や開催可否などにつきましては
随時ホームページやFacebook などでお知らせ
してまいります。

スクールの情報はこちら



Facebook



Web

